

茨城県

育成会だより

第 137 号

発行日 平成 31 年 3 月 10 日
 発行 一般社団法人
 茨城県手をつなぐ育成会
 編集 広報委員会
 事務局 〒310-0851 水戸市千波町 1918
 茨城県総合福祉会館内
 ☎ 029-243-3838
 FAX 029-243-3854
 URL <http://www.ibaikuseikai.com/>
 e-mail iba-ikuseikai@bz03.plala.or.jp



毎月楽しい食事会 今月はクリスマス会—“宴”のあと



実習の一つ：農場でのトマトの選別



就労の場で：菓子店の陳列



姉妹園トボスでの作業



就労の場で：書店での整頓

励ましあい・讚えあい・みんな仲良く!!
 株式会社パートナーズ 障害福祉事業所「おひさま」
 (就労移行支援定員25名・就労継続支援定員15名)
 理事長 小林幸子

当施設は、平成23年10月、就労移行支援施設として土浦市穴塚の地に開設されました。当初、通所することさえ困難な方もおりましたが、まず毎日通所することを目標として、やがて通所できた喜びに、ご家族・支援者、なにより本人が自信と希望を持ち始めました。その後、通所者も順次増えて、「おひさま」の名が地域周辺で知られるようになりました。

現在、「おひさま」では、当施設のスローガンである「励ましあい、讚えあい、みんな仲良く」を毎日の朝礼で唱和して作業を開始しています。

近年、国においては「障害者総合支援法」、「障害者雇用促進法」等の法律が次々と整備され、自立への道が広がりつつあります。それに伴って、当「おひさま」では、十数か所での実習をメインに就職に向けて職員共々日々がんばっております。

通所者は、実習で得た体験を通して働くことの厳しさ、喜びを体得し、就労への意欲を高めており、その成果として、昨年1年間で姉妹園である「レインボー」[トボス]を入れて、20名以上が一流企業を含む会社に就職することができました。彼らは、それぞれの企業で日々苦勞しながらも、たくましく大きく成長しております。また、「おひさま」は、就労後もその企業と緊密な関係を維持して、就労者が安定して働けるよう、フォローアップしています。

明るい未来へ向け、おひさま(太陽)の如く、スタッフも支援者も、通所者たちの就労の目標のため、笑顔いっぱい毎日過ごしていく決意です。

(連絡先：土浦市穴塚184 電話：029-895-4531)

育成会交流事業 行なわれる

つくば特別支援学校交流会開催される

つくば市手をつなぐ育成会会長 後藤 真紀

平成 31 年 1 月 22 日(火)13 時 30 分より、茨城県立つくば特別支援学校において、茨城県手をつなぐ育成会・茨城県肢体不自由児者父母の会と、特別支援学校保護者との初めての交流会が開催されました。

県育成会からは矢野会長、利根町手をつなぐ育成会・荖崎手をつなぐ育成会・つくば市手をつなぐ育成会が、父母の会からはうしく肢体不自由児者父母の会・土浦市肢体不自由児者父母の会・つくば肢体不自由児者父母の会から 15 名が参加し、約 30 名の保護者と 1 時間ほど、懇談がおこなわれました。

まずはじめに、つくば特別支援学校古川校長よりごあいさつをいただき、次に県父母の会御代川会長、県育成会矢野会長からあいさつがあり、各会から出席者の紹介がおこなわれました。

次に父母の会・育成会の概要説明があり、その後各地域父母の会・育成会の活動紹介がおこなわれました。参加した保護者は肢体不自由児の保護者が多く、また土浦や石岡等つくば市外から通学されている方の出席も多く見られました。

矢野会長からは、保護者に対し「現在は在学中で困ったことがあっても相談先がありなんとか解決されているかもしれないが、卒業後必ず困ったことがある。そのときに親の会に入会しているのとしていないのでは大きく異なるため、ぜひ関心を持っていただきたい。」と話されました。

今回の交流会で父母の会・育成会を初めて知った方もおり、今後各会へつながるよい機会になることを期待します。

〈12月 土浦育成会も支援学校と懇談会〉

土浦特別支援学校においても、12月7日(金)の午後約1時間、同様の懇談会が行われました。「育成会」(県・矢野会長)と「父母の会」(県・御代川会長)からそれぞれ関係者が出席し、学校側の副校長先生、保護者の方々と、福祉関連の問題を話し合いました。時間の制約もあり、当初予定していた案件すべてを討議することはできませんでしたが、実質的に初めての懇談会であり、次回以降の会合に期待をつなぐ、よい機会となりました。(土浦市手をつなぐ育成会 会長 渡辺 征)

〈美浦特別支援学校保護者等との懇談会に参加して〉

私自身は県肢連(県肢体不自由児者父母の会連合会)と一緒に以前から懇談会に参加していましたが、県育成会との合同懇談会になってから3回目になりました。平成 31 年 2 月 19 日(火)の今回は、矢野育成会会長と御代川県肢連会長を含め 10 名と保護者 4 名・先生 4 名が参加して、卒業後の子どもの進路やサービス利用等についての熱心な懇談会になりました。

現在の両親は共働きが多く、子どもの日中支援サービス後の福祉サービスに関心が移っていました。県育成会として、このニーズにどう対応するかが今後の課題だと思われます。

(利根町手をつなぐ育成会 会長 大坪 浩)



つくば校での交流会



美浦校であいさつする生野校長

「意思決定支援」が重要

— 「全国権利擁護セミナー」に参加して

権利擁護委員会（日立市手をつなぐ育成会） 永井 立雄

平成30年11月29日、千葉市民文化センターで開催された「第7回全国手をつなぐ育成会権利擁護セミナー」に参加しました。当日は全国各地から会員が集まり、久しぶりの再会を喜びあうお母さんたちの声が会場に響いていました。

今回のセミナーは「講演」、「寸劇」、「シンポジウム」という三つの内容で構成されおり、「障害者の意思決定」をテーマとして、様々なプログラムが展開されました。

障害者権利条約が批准された現在においても、家庭や学校、福祉の現場や行政の支援の場面で「本人」の意思がともしれば軽く見られ、「本人のためだから」とか「良かれと思って」など、周囲の人たちの都合や思い込みによっていろいろなことが決められることがあります。しかし、「自分で決めること」は人としての「権利」であること、そしてその権利を行使できるようにするための「意思決定支援」がとても重要であることを、今回のセミナーで学ぶことができました。

今後私たちは、家庭でも社会でも「障害のある人たちの思い」にもっと敏感になって、「意思決定支援」の効果的な仕組みづくりをみんなで考えていくことがとても必要だと感じながら、会場を後にしました。

“北茨城育成会”が作品展とバザーを開催

北茨城市手をつなぐ育成会は、1月25日（金）と26日（土）の両日、同市磯原町の市民ふれあいセンターで、「第56回手をつなぐ子らの作品展と手をつなぐ育成会チャリティーバザー」を開催いたしました。

作品展では、北茨城市の13の小・中学校と県立北茨城特別支援学校や2つの福祉センターの生徒と通所者が制作した絵画や習字、手芸・木工などの作品を展示しました。また、バザーでは、陶器や日用品・雑貨などを販売しましたが、このバザーにあたっては、育成会は各方面に呼びかけてバザー用品の寄付を求めました。

この作品展とバザーは、長年育成会が市の教育委員会や社協などと連携して行なってきたもので、市内の全障害者団体の参加を得て、障害者の交流を図るとともに、子どもたちの成長ぶりを周囲の方々に知っていただきたいと願って続けて参りました。今回のバザーの収益金は育成会の活動資金として役立てられることとなります。
（北茨城市手をつなぐ育成会 会長 鈴木 金一郎）

土浦市で37回目の障害児者の「新年の集い」

土浦市が新春に行なっている障害児者関係の恒例行事に「障害児（者）を励ます新年の集い」があります。本年も、1月14日（月）11時に、招待された新成人11名を含む34名の障害児者とその家族、土浦市中川市長などの来賓や市の職員等109名の方々が、市内霞ヶ浦湖畔の「アジュール土浦」に集まりました。

式典の部で、11名の新成人が一人ひとり市長から記念品や花束を受け取り、代表者が力強い感動的なお礼の言葉を述べたあと、市長を囲んで記念写真の撮影を行ないました。

しゃれた昼食ののち、公演の部として、今年は、バイオリニスト安藤麻衣子^{マコ}さん、チェリスト城戸春子^{ハルコ}さんお二人による演奏がありました。わかりやすい楽しい語りとともに、クラシック調の曲からポピュラーなまでの演奏が続き、あっという間の40分でした。

最後は「お楽しみ抽選会」で、会場はワーワー、キャーキャーの歓声に包まれました。その場で包みを開ける方もいました。今年も「新年の集い」は大きな盛り上がりの中で終了しましたが、その間、終始、障害児者やその家族と、来賓の方々と和気あいの交流が見られました。

（土浦市手をつなぐ育成会 渡辺 征）



バイオリンとチェロによる演奏

平成30年度の委員会活動報告と次年度に向けて

〈総務委員会〉……………総務委員会委員長 飯村 晴代

総務委員会は、第1回平成30年4月16日、第2回6月2日、第3回9月6日、第4回31年2月13日の4回行いました。

総務委員会は、各委員会の計画や活動内容に提言をさせていただき、円滑な理事会を進めるための骨格を作る委員会です。

総務委員会だけでなく、各委員会も、県育成会と各地区の会員の皆様方に有意義な情報をお伝え出来るよう努めておりますので、会員の方々には深いご理解と大会及び研修会へのご参加をお願いいたします。

2019年（平成31年）は年4回の開催を予定しています。

〈今年度の活動報告と新年度の抱負〉……………研修委員会委員長 嶋田 みち子

平成30年度より研修委員長を務めております嶋田です。今年度の活動を開始するにあたり、各委員が情報を持ち寄って研修内容を検討し、活発な意見交換を行いました。研修会のテーマは、会員の関心が高いことを中心に検討しました。また、会員だけでなく、特別支援学校の保護者の方にも研修会を案内し、より多くの方への情報提供を心がけました。

今年度の研修会は、以前からの念願であった綿祐二氏を講師に招き、「障害者の親亡き後の人生を考える」と題して開催しました。9月26日に水戸市の常陽芸文ホールにおいて開催された研修会は、会員および特別支援学校関係者を合わせて200名を超す参加者があり、関心の高さが伺えました。

今後は、従来の研修会に加え、会員同士の交流会を開催したいと考えています。県育成会の事業計画の一つに会員の拡大があり、育成会の更なる発展を考慮しますと、新会員の確保は重要事項であります。しかし、新会員を確保するためには、まずは現会員が楽しめる事業を行うことも重要と考えています。障害を持った我が子を育てる中で培った知恵・経験および情報を交換することが出来る交流会を企画・開催することで、会員の皆様には新たな発見や他の会員とのつながりを更に深めて頂ければと思います。

皆様のご協力、よろしくお願いいたします。

〈広報委員会〉……………広報委員会委員長 徳永 一成

広報委員会では、県育成会広報誌「育成会だより」を年3回（7月・12月・3月）発行しております。

作業内容としては、①編集会議（割り付け、関係機関へ原稿依頼）②印刷所への入稿（原稿整理、印刷依頼）③初校（誤字・脱字等の校正）④再校（誤字・脱字等の校正）⑤発行（発送作業）になります。

広報委員のメンバーは発行のたび5回集まり、編集・校正・発送等の作業をしております。

次年度は、各自持っている潜在能力を存分に発揮するように、これまでややあいまいであった役割分担を明確にして、会員・関係各位の皆様が読みやすく、より興味と関心を持ってくれる様な「育成会だより」を作って参ります。皆様のご意見・ご感想を十二分に反映したいと考えておりますので、身近な出来事・情報を、広報委員会までお知らせ下さい。

〈平成30年度本人部会活動報告〉…本人部会実行委員長（北茨城市） 深谷 知史

I 本人部会実行委員会は、総合福祉会館で以下のように行われました。午前10時から午後3時くらいまでです。

- ①平成30年4月22日(日) ②6月3日(日) ③10月7日(日) ④11月4日(日)
 ⑤平成31年1月20日(日)
 いずれも団体会議室をお借りしました。

II 本人交流会

第1回 平成30年6月10日(日)10時から(福祉会館中研修室)

「W^{ダブル}とりゲーム(実行委員会考案)」、「ハンドアーチェリー」、「何でもトーク」等

参加者 本人22人、支援者8人、事務局1人、計31名

第2回 平成30年11月25日(日)10時から(福祉会館高齢者研修室)

午前:「皆^{みんな}で考えよう」

講師(まとめ役、助言者)

1. WEL'S TOKYO センター長 堀江美里氏
2. 茨城県保健福祉部障害福祉課企画担当 垣内武氏
3. 同 自立支援担当 鈴木絢子氏
4. 茨城県労働局職業安定部職業対策課 杉山朋久氏

午後:「カードゲーム(知る見る)」

参加者:本人35人、支援者13人、まとめ役1人、助言者3人、事務局2人、計54名

〈権利擁護委員会の新年度の基本計画〉… 権利擁護委員会委員長 名兒耶 清吉
 ・権利擁護委員会として、平成30年度とそれまで実施してきたさまざまな事業の成果・結果を踏まえながら、次年度の事業計画を次のとおり設定いたします。

☆29年度講習会の年間テーマ「障害のある子を残して、貴方は安心して死ねますか？」

☆30年度講習会の年間テーマ「障害者が安心・安全に暮らすには、家族はどうすれば良いか？」

1. 委員会の開催(年6回開催)

- ・6月 2019年度講習会のテーマおよび講師を決定する。
- ・7月 〈第1回講習会〉の案内等
- ・8月 〈第1回講習会〉のグループ分け・スケジュール等
- ・10月 〈第2回講習会〉の案内等
- ・11月 〈第2回講習会〉のグループ分け・スケジュール等
- ・1月 2019年度の業績評価、2020年度活動方針

2. 講習会形式の予定事業(年2回実施—午前は講演、午後は地域混合のワークショップ方式)

☆2019年度共通テーマ:「障害のある人の自己決定支援と課題」

- ①8月23日(金) 第1回講習会 講師:堀江 まゆみ(白梅学園大学教授)
 ②11月21日(木) 第2回講習会 講師:関哉 直人(弁護士)

3. 実施上の課題等

- ・講習会を地域に分散して開催するよう要望があるが、会場の確保がむずかしい。
- ・各地の具体的提案があれば、検討したい。
- ・今後の講習会テーマ、講師の要望があれば、提案いただきたい。



4日間に6600名の見学者

ナイスハートふれあいフェスティバル2018(学校教育の部)

茨城県特別支援教育推進連盟 会長 堀籠 義明

平成30年12月7日(金)から10日(月)にかけてナイスハートふれあいフェスティバル2018(学校教育の部)が県民文化センターで開催されました。これは、特別支援学校、小・中学校の特別支援学級や通級指導教室に通う幼児児童生徒が、日頃の学習成果の発表をととして学習活動や社会参加への意欲を高めるとともに、特別支援教育に対する県民の理解と認識を深めることを目的とした事業です。

7日(金)に開催された**学習発表会には、13団体が出演**し、劇、合唱、合奏、ダンス等を披露しました。7日(金)から10日(月)に開催された**美術展には7,001名が出展**し、4,910点の個人・共同作品が展示されました。4日間合わせて約6,600名の見学者がありました。

出演者からは、「目標に向かう大切さを知った。」「達成感を味わった。」という感想が、見学者からは、「練習の成果が出てまとまりが見られた。」「感動した。」「想像力豊かで作品の思いが伝わった。」等の感想が多く寄せられました。
(文責 勝田特別支援学校 教諭 大滝真理子)



本人部会第二回交流会に54名参加!

本人部会支援者(北茨城市手をつなぐ育成会) 鈴木 胖ゆたか

年金ってどうなってるのかな?働きたいんだけど、誰にそうだしたらいいのかな?どこへ行けばいいのかな?等々の日頃の悩みについて話し合うことができればいいな、との思いがまとまったの今回の交流会。さいわい「就業・生活センター WEL'S TOKYO」の堀江美里さんがリード役を引き受けてくれました。パネラーとして県職員2人、県労働局から1人、本人実行委員から1人を立てて、万全の態勢です。

参加者は、いわき市からの5人も含めて本人35人、支援者を含めて総数54人でした。

“みんなで考えよう”の午前の部では、「どうして私の給料は他の人と比べて少ないのですか?」とか、「どうしていいかわからない」とか、自分の悩みを打ちあげたりして、ハローワークや障害者就業・生活支援センターの役割も、少しずつ視野に入ってきました。

午後の“カードゲーム”でもグループに分かれて親しくなったり、全員で同じ“お題”に取り組んで、一人では考えきれない問題をみんなで楽しみながら考えることができました。



本人交流会の一場面

特別支援学校紹介

茨城県内の特別支援学校を順次紹介していきます

県立結城特別支援学校（結城市）

本校は、結城紬で知られる歴史と文化の街、結城市にある特別支援学校です。結城市鹿窪^{カナクボ}の閑静な住宅街にあり、JR水戸線結城駅からも自転車で10分程度と利便性の高いところに立地しています。また、校庭に桜並木があり、その周囲には豊かな田園地帯が広がるなど自然環境にも恵まれています。通学区域に関しては、小学部、中学部、高等部普通科の通学地域が、結城市、八千代町、下妻市、常総市の一部（旧石下町）、筑西市の一部（旧関城町）です。また、高等部には専門学科として全県下を募集対象にした県下唯一のビジネス・ライフ科が設けられており、全員就労を目指してデュアル実習などに取り組んでいます。在籍数は平成31年1月1日現在、小学部63名、中学部48名、高等部普通科53名、ビジネス・ライフ科33名、計197名で、「あかるく、ねばりづよく、じぶんで」という校訓のもと元気に学習に励んでいます。

平成30年10月には創立40周年記念式典が厳かに挙行政され、学校の40回目の誕生日をお祝いしました。当日は、多くの方々をお迎えし、ビジネス・ライフ科のハンドベル演奏を披露しました。

この40周年を機に本校のスローガンである「地域に信頼され常に活力あふれる学校」を目指して、児童生徒、教職員一同、精いっぱい努力していこうという思いを強くしました。



【高等部ビジネス・ライフ科】
40周年記念式典
ハンドベル演奏



【小学部】（学校間交流）
「学校たんけんをしよう」



【校庭の桜並木】



【高等部普通科】「現場実習」



【中学部】「喫茶店をしよう」

4月からの行事予定

月	日(曜日)	行事予定
5月	10日(金)	茨城県手をつなぐ育成会理事会
6月	6日(木)	2019年度総会(県総合福祉会館大研修室)
7月	10日(水)	「育成会だより」138号発行
10月	12日(土)~14日(月)	いきいき茨城ゆめ大会
	23日(水)	第57回手をつなぐ育成会茨城大会(県総合福祉会館コミュニティーホール)
11月	9日(土)	第53回手をつなぐ育成会関東甲信越大会(さいたま市)
	23日(土)~24日(日)	第6回全国手をつなぐ育成会連合会全国大会(熊本県)
12月	10日(火)	「育成会だより」139号発行

知的障害児者・自閉症児者のための

2019年度版

生活サポート総合補償制度

普通傷害保険(知的障害者等福祉団体傷害保険特約、地震・噴火・津波危険補償特約セット)

2019年 おすすめプランの主な特長

(補償プラン①掛金23,000円の場合)

- 病気・ケガの入院給付金が1泊2日以上入院から補償
- 高額賠償事故に備え、個人賠償を最高3億円まで補償
- ケガの場合の補償が入院保険金が5,000円、通院保険金が3,000円

被保険者 (補償の対象者)	補償期間 (保険のご契約期間)	掛金
知的障害児者または自閉症児者をご加入できます。	2019年4月1日から 1年間	入院2日目から補償プランB 掛金… 23,000円 (保険料 19,810円)
		入院4日目から補償プランA 掛金… 17,000円 (保険料 14,810円)

詳細は担当代理店・扱者または引受保険会社にお問い合わせください。また、ご契約に際しましては、事前に重要事項説明書(契約概要・注意喚起情報)を必ずお読みください。引受保険会社の損害保険募集人は、保険契約の締結の代理権を有しています。

保険のお問合せはこちら

■担当代理店・扱者
株式会社 ジェイアイシー
〒160-0023 東京都新宿区西新宿3-2-11
新宿三井ビル2号館2F
TEL: 03-5321-3373
FAX: 03-5321-4774
受付時間: 午前9時~午後5時
(土・日・祝日・年末年始を除く)

■引受保険会社
AIG損害保険株式会社
https://www.aig.co.jp/sonpo
東京第二プロチャネル営業部
〒163-0814 東京都新宿区西新宿2-4-1
新成NSビル14階
TEL: 03-6694-9110
受付時間: 午前9時~午後5時(土・日・祝日・年末年始を除く)

ご加入のお問合せはこちら

一般社団法人 全国知的障害児者生活サポート協会
連絡先はTEL又はホームページにてご確認ください。
TEL: 03-5577-6351 http://www.zensapo.jp
加入窓口は全国の全国知的障害児者生活サポート協会傘下の
各都道府県団体の事務局となります。

2018年11月現在の内容です。(D-003490 2019.11)

育成会の本『あたらしいほうりつの本』が出版しました。

この本の特徴・特色は？

1. 2014年版が大幅に改定された、2018年12月発行の最新版である。
B5版/120ページ 1200円+税
2. 説明の文章はできるだけ少なくしてあり、右ページが説明の文章、左側が説明のイラストになっている。
3. 特に知的・発達障害のある人に関する制度やサービスを取り上げている。
4. 障害福祉のサービスを上手に使うためのよき案内書となる。
5. 著者は「又村あおい」氏。神奈川県平塚市の職員で、「手をつなぐ」誌の編集委員を務めている。
6. 本書の発注先：発達障害連盟 ☎ 03-5814-0391 (機関誌「手をつなぐ」からの転載)

あたらしい
ほうりつの本



好評
発売中

編集後記

平成最後の「育成会だより」発行作業でした。次の年号は何になるのでしょうか。現代社会は、メールやSNSに象徴されるように、いつでも簡単に情報を得ることが出来ます。しかし、「育成会だより」の編集作業は、まさかの手作業です。ある本のあとがきに「手は与える、癒す力を。手は感じる、人の温もりを。手は伝える、ひとりではないことを。手はつくる、人との絆を。」とありました。このあとがきを読んだとき、手をつなぐ育成会の活動を象徴しているかのように、ふと思いました。(杉山)